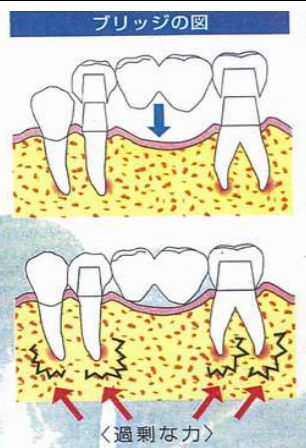


一方、ダウン症を始め、遺伝子の変異によるたくさんの障害が胎児のうちに検査でわかるようになりました。そのため、遺伝子検査を受けるか受けないか、ダウン症等の障害を持つことがわかったら生むのか生まないのか、夫婦と夫婦をとりまく家族は大きな決断を迫られることになってきました。これからは、それぞれの家族が悩みながら答えを探すことになります。

これまで話してきたように、特別支援を必要とする子どもたちは、「あなたに与えられたかもしれない病気の遺伝子を、たまたま受け取って生まれてきた人」とであると理解し、この子どもたちにはどんな「特別支援」を必要としているのか、隠されている能力をどう引き出してあげたらいいのかと、想像しながら、やさしい笑顔を向けてください。

この子どもたちは、貴クラブ企画の「芋掘り」のような、人との「出会い」や「ふれあい」が多いほど、そして新しい経験が多いほど、心を開き成長していくのです。

<卓話:インプラントとブリッジ: 野村 充 会員>



どれくらいかめますか?

<ブリッジ>は抜歯した歯の隣に残った天然歯(自分の歯)を削って土台とするので、どれくらいかめるかは、土台となる天然歯の状態によります。通常は、自分の歯と同じくらいかめます。

<インプラント>は他の歯を削る必要はありませんし、咬合力は天然歯とほぼ同じで、天然歯と同じようにかめます! 咬み心地もかわりません。

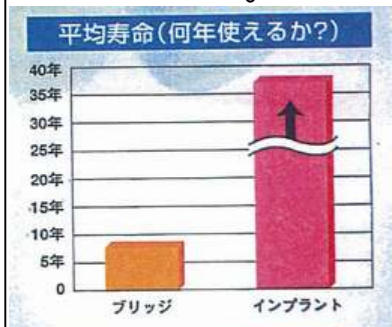


何年使えますか?

<ブリッジ>は、残っている自分の歯や歯茎の状況と、手入れの仕方によって変わりますが、平均寿命は8年というデータがあります。8年後には約半分はダメになるということです。ダメになった場合、土台となる自分の歯も失われる危険性があります。これに対して、<インプラント>は、10年後の成功率は95%くらいです。つまり100本のうち10年後ダメになるのは5本くらいしかありません。20年後でも90%は大丈夫でしょう(つまり、インプラントの平均寿命は30年以上とされます)



残っている歯や歯茎(顎骨)への影響はありますか?



<ブリッジ>は、土台となる両隣の自分の歯を削りますから、削られた歯の寿命は当然短くなります。また、かむ力を、土台となる自分の歯に負担させますから、過剰な力がかかります。ですから、ブリッジの平均寿命は8年なのです。

これに対して、<インプラント>は残っている歯を削ることもありませんし、残っている歯に力を掛けることもありません。それどころか、咬合力をしっかり支えますから、残っている歯の負担も少なくなり、残っている歯の寿命も長くする期待が持てます。

国際ロータリー第2790地区第12分区

松戸北ロータリークラブ



四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- 1・真実かどうか
- 2・みんなに公平か
- 3・好意と友情を深めるか
- 4・みんなのためになるかどうか

第1979回 例会 2013年8月27日(火)

- 国際ロータリー会長 ロンD. パートン
- 第2790地区ガバナー 関口 徳雄
- 第12分区ガバナー補佐 渡辺 敏弘
- 松戸北ロータリークラブ会長 児山 守治
- 松戸北ロータリークラブ幹事 平田 洋一
- 例会日 - 毎週火曜日12:30より (第1例会18:30)
- 例会場 - 松戸市八ヶ崎1-10-6 「びわ亭」
- 事務所 - 松戸市八ヶ崎1-11-13 サンライズハイム101
- TEL/FAX- 047-711-5950 / 047-711-5910
- Web/Mail- www.rc2790-12.jp / kanji@rc2790-12.jp

<第1979回:例会プログラム>

- | | | |
|-------|--|---|
| 12:30 | 点鐘
ロータリーソング斉唱【♪我等の生業】 | 児山守治会長 |
| 12:33 | お客様紹介 | 崎谷延好会長エレクト |
| 12:35 | 会食 | |
| 12:55 | 例会再開
会長挨拶・報告 | 児山守治会長 |
| 13:00 | 幹事報告 | 平田洋一幹事 |
| 13:05 | 卓話
「インプラントとブリッジ」 | 野村充会員 |
| 13:25 | 【委員会報告】
会員増強委員会 セミナー報告
米山記念奨学会委員会 セミナー報告
社会奉仕委員会 社会奉仕基金発表
ニコニコ委員会 ニコニコ発表 | 高橋進委員長
中原光男委員長
齋藤和實副委員長
小林弘委員長 |
| 13:30 | 点鐘 | 児山守治会長 |



<会長挨拶：児山守治会長>

皆さん こんにちは。北の方から秋の便りが届いております。
「赤とんぼ ススキ 新米の収穫」また この周辺では蟬の鳴き声が消えてもう直ぐ 秋の気配が感じられる今日この頃です。
各委員会の皆様には会の運営に多大なご協力をいただき、誠にありがとうございます。更に毎週指導を受けながら例会運営に努力しているところであります。これからも引き続きご指導ご協力宜しくお願いいたします。



さて皆さん 超特急リニア中央新幹線と言う名称を聞いた事があると思いますがいよいよ2027年に開業予定となりました。14年後 品川-名古屋間開通の予定です。286kmを1時間位で結びます。最大時速500kmです。磁石のN極とS極を反発させて進みます。車体が15cm浮いているので実際のレールは使用しません。スーと静かに進みます。全長の約8割が地下40mのトンネル走行となります。JR東海が東京 神奈川 山梨 長野 岐阜 愛知 各県を横断します。南アルプスを東西に貫通する直線的なルート着工となります。東京や愛知などではほとんどが地下40m以上のトンネルになる為 地上の用地買収や事前の補償の必要が無くスムーズに着工できます。

現在のJR品川駅 名古屋駅にプラットフォームが併設されるほか通過する各県に一駅設けられる予定です。山梨 長野 岐阜は地上 神奈川は地下の駅となる事が決まっています。是非1度乗車してみたいものですね。

本日は野村会員の卓話がございます。どうぞご期待いただきたいと思います。
以上会長の挨拶といたします。

<幹事報告：平田洋一幹事>

松戸中央ロータリークラブ：8月29日（木）夜間移動例会（納涼会）の予定でしたが、通常例会に変更になりました。



<卓話:福士恭子様>

「特別支援」を必要とする子供たちについて（後編）



障害のあるお子さんの生まれる原因について、考えたことがありますか？
妊娠中にかかった病気や飲んだ薬の影響を受けた例や、へその緒が巻きついていたり、陣痛微弱のため出産に時間がかかり、そのため子どもが酸素不足になって脳に障害が起きた例も多いのです。広島・長崎の原子爆弾や、福島の原子力発電所事故から、放射能の影響も今心配されていますね。

他に病気や障害になる遺伝子を親から受け継いだ子もいます。

お手元のある「1/4の奇跡 副題—『強者』を救う『弱者』の話—」という本をご覧ください。この本は石川県の特別支援学校の先生、山元加津子さんが特別支援学級の子どもたちとその保護者との心の触れ合いを記したものです。

この本のタイトル「1/4の奇跡」とは、もう何年も前にNHKテレビの科学番組「人体Ⅲ」で取り上げられた話です。アフリカのある村がマラリアという伝染病で全滅しかかったとき、生き残ったのは、「鎌状赤血球症」という病気を発症させる遺伝子をもつ人達だったと言うのです。アフリカではマラリアに感染して死亡する人が多いので、鎌状赤血球症の遺伝子を代々伝えていくしくみが残ったのだらうと考えられているそうです。ここで、生き残った人々の子孫の内、1/4の人に「鎌状赤血球症」という病気が発症し、発作が起こると激痛に襲われ、骨の壊死や、脳梗塞や心筋梗塞で死に至るとても悲惨な病気で、患者の平均寿命は男性で40代前半、女性で40代後半なのだそうです。

しかし、このマラリアから生き残る自然の仕組みは、「鎌状赤血球症」を発症する1/4の人（『弱者』）の存在があつてはじめて成立するものなのです。

詳しいことは、世界でも「鎌状赤血球症」研究の第一人者である新原 豊（医学博士）教授がこの本に書いています。

これは、今話題になっている「生物（が持つ遺伝子）の多様性」を保持しようとする活動とも深いつながりがあります。

ご自身も障害を持つ、生命科学者の柳澤桂子さんは、この本の中でこう書いています。
「私たち全人類は、ひとつの大きな『遺伝子のプール』を共有しています。遺伝子プールには、突然変異によって生じた、少しずつ違う遺伝子が蓄えられています。新しい子どもは、この大きな遺伝子プールから、個性豊かな2万個もの遺伝子を与えられてこの世に生まれてくる。そのため、作られる個体が、非常に多様性に富むことになるのです。人類が出現してこのかた、遺伝子という観点から見ても、私たち一人ひとり、唯一無二の存在なのです。

私たちを取り巻く現在のDNA環境は、想像を絶するような時間の試行錯誤の結果として得られたものなのです。

私たちは、遺伝子プールの中から、どの遺伝子を受け取るかということ、自分で選ぶことはできません。そして、必ず誰かが、病気の遺伝子を持って生まれてこなければならぬ。それが、遺伝子プールの構造なのです。

突然変異を起こして多様化していくことが、この地球に適応していくこと。多様化するときには、ある一定の頻度で、重度の病気や障害を持つ子どもを生み出してしまうものです。個人にとって「悪い遺伝子」というものはあるかもしれませんが、社会にとっての「悪い遺伝子」というものはありません。このように、原因となる遺伝子を持って生まれた病気や障害のある子どもたちは、私たちにとても大切な存在なのです。私たちの子どもや孫・曾孫の一人が偶然に突然変異を起こした遺伝子を持って生まれることもあるのです。あなたに与えられたかもしれない病気の遺伝子を、たまたま受け取って生まれてきた人がいる。その人に、できるだけ快適な生涯を送れるように配慮し、尽くすことは、健康に生まれてきたものの当然のつとめだと思います。

その時「我が家の家系にはいない」等とは言ってられないのです。人類のために多様な遺伝子を伝えてくれている大切な存在なのです。遺伝病の「鎌状赤血球症」は、先ほど話した 新原 豊 医学博士が長い研究の結果、治療薬をみつけ、もうすぐ一般に使われるようになるそうです。人類の医療技術の進歩は本当にすごいものですね。

（次ページ）



■ロータリーの奉仕哲学「超我の奉仕」Service above self■

このServiceの意味は人のためにつくすこと。ビジネスでもServiceの心がけはシェルドンの言葉を借りれば「永続的な顧客を得る道」であり、信用を増して繁栄への道につながる。